

近代農業土木学の父「上野英三郎」をバックサイトする

三重大学大学院生物資源学研究科 成岡 市

1. はじめに

2009年6月、日本測量協会が完全バックアップした東映映画配給「劔岳／点の記」(新田次郎原作)をご覧になったでしょうか。100年前の日本陸軍参謀本部陸地測量部での出来事である。筆者は、大学の授業で測量学を担当しているのですが、この映画に大変興味を持っていたが、実際映画館に観に行った森林学系講座の測量学担当者から、結局、又聞きするだけであった。

この同じ年の8月、松竹映画配給「HACHI／約束の犬」(原題 "Hachiko:A Dog's Story")が名優のリチャード・ギア主演で上映された。農業土木学(現農業農村工学)を専攻している者は必見の作品だった。東京の渋谷駅前にある銅像「忠犬ハチ公」の米国ハリウッド版だからというわけでもないが、配給会社の予告編をみただけでも、思わずこみ上げてくるものがあった。

このような中、飼い主であった上野英三郎(うへのひでさぶろう; 1872年～1925年)とハチ号(血統書名; 1923年～1935年)を偲び、三重県津市久居在住の御子孫 上野一人氏{三重県議会第95代議長歴任(2002年～2003年)、**写真 1**}を訪ね、三重県久居の菩提寺にある「東京帝国大学 教授農学博士 上野英三郎」を墓参させていただいた(**写真 2**)。専攻を同じにする者にとっては、「バックサイト」(Backsight; 測量学では位置の確定した基準点をのぞきみること)する重い気持もあった。



写真 1 ご子孫の上野一人氏(左)と三重大学の石井 敦博士(右; 東京大学の農業土木学を継承する講座の卒業生)



写真 2 上野博士の墓(法専寺; 三重県津市久居)

2. 近代農業土木学の創始者の活躍

上野英三郎(以下 上野と略記)は、明治政府の耕地整理事業(現 土地改良事業)を担う農業土木技術者の養成・研究・技術開発・高等教育機関の新設などに尽力した業績が讃えられている。現在は、東京大学農学部内に胸像が安置され、毎年全国の農業土木学関係者が集って供養が営まれている。

1871(明治 4)年、三重県久居(現 津市)に生誕した上野は、地元久居町高等小学校、津中学校(現 津高等学校)で学び、1888年に東京農林学校(のち帝国大学農科大学)に入学し、その後農業土木および農具学研究のため大学院に進学した。1900年に「耕地整理法」(交換・分合による分散農地の集団化、圃場区画の標準化、用排水路や農道等の直線化による既耕地の利活用などを目的にしていた)が施行されると、東京帝国大学農科大学講師に着任。担当した「農業土木学」は、当初、測量と灌漑排水の一部を合わせたような授業科目だったが、その内容の発展・体系化に取り組み、「土地改良論」(1902)、「農用工学教科書」(1903)、「農業土木教科書」(1904)、「耕地整理講義」(1905)など、現在の農業土木学の基礎となる教科書を短期間のうちに続々発刊した。

当時、上野は日本唯一の農業土木学研究者として、全国各地の農業土木事業を担う技術者の育成に尽力し、大日本農会附属東京高等農学校(現 東京農業大学)で耕地整理に関する講習会を担当した。また、1905年に農商務省が耕地整理講習制度を開始すると、農商務技官を兼務し、耕地整理農業土木技術員養成官として約20年間努めた。

1911(明治 44)年、東京帝国大学農科大学農学科内に農業工学講座が創設さ

れると、担当教授に任命された。発足当時の授業科目は農学中心の構成であり、農業土木学分野の科目はその一部に付随した状況であったため、独立した専攻学科の設置に奔走し、「農業土木学専修」の設置(1925年)を成功させたという実績がある。その後、大学内の教育・研究・管理運営のかたわら、農商務省の兼任技師として耕地整理事業に取り組み、学官双方で精力的に活躍したが、在職中(1925(大正 14)年)、学内で動脈瘤を破傷、急逝した(享年 54)。

3. 農業土木学の高等教育機関を創設

東京帝国大学に農業土木学専修が設置される前{1921(大正 10)年}、上野は新設の三重高等農林学校(現 三重大学大学院生物資源学研究科)に農業土木学科を設置させた。その当時は、農学科、農業土木学科、林学科の3学科が開校の条件としていた。次いで、1922年、九州帝国大学農学部に農業工学講座、1923年、京都帝国大学に農学部および農林工学科が新設されている。

その後、1935(昭和 10)年に東京帝国大学の農業土木学専修が学科として昇格し、1938年に九州帝国大学に農業土木学専修が認められた。そして1941(昭和 16)年には「農地開発法」が制定されるとともに農地開発営団が設立される。このとき、農業土木技術者の養成が急がれたことにより、同年、宇都宮高等農林学校、東京農業大学専門部に農業土木学科が設けられ、次いで1941年に岐阜高等農林学校が設置された。

現在、全国の40余の教育研究機関には、上野の系譜にあたる学科講座が残されている。

4. おわりに

上野の遺骨は、上野家累代の墓がある津市久居の法専寺(前出**写真 2**)に埋葬されている。また、東京の青山墓地に、上野の門下生らの手により分骨埋葬されている。その後、農業土木学会(現農業農村工学会)によって墓地が永久的に維持管理されることとなり、同学会主催で毎年法要が営まれている。

農業農村工学会は、技術者・研究者・学生などからなる学術団体として会員約 1 万人余の組織となっているが、前身は 1907(明治 40)年に設立された 700 名余の「耕地整理研究会」(耕地整理講習制度の修了者からなる組織)だった。

なお、上野の著書等の業績に用いられている「耕地整理、土地改良、農業土木」などの用語は、「耕地整理講義」では「圃場整備」、「土地改良論」では「灌漑排水」、「農業土木教科書」ではその両者として、各々の用語が明瞭に定義されていた。上野は、首尾一貫して作業効率向上のための耕作地の集団化、大区画化、農道の敷設等を行う事業のことを「耕地整理」と総称していたと考えられる。しかし、耕地整理法の施行後は、「灌漑排水、開墾、地目変換(畑地の水田化)、干拓・埋立」などの事業が加わり、さらに第二次大戦後は土地改良事業となり、「耕地整理、土地改良、農業土木」などの用語は当初上野が考えていたそれとは異なる内容に変貌していったと思われる。

現在、上野の担当した東京帝国大学「農業工学第一講座」は、東京大学「農地環境工学講座」となっている。歴代教授(敬称略)は、上野英三郎(1911～1925年、主著「耕地整理講義」)、田中貞次(1925～1951年、「灌漑・排

水」)、山崎不二夫(1951～1969年、「農地工学」、「農地造成」)、新沢嘉芽統(1969～1973年、「地価と土地政策」)、竹中肇(1974～1984年、「農地工学」)、小出進(1985～1989年、「耕地の区画整理」)、田淵俊雄(1990～1994年、「世界の水田・日本の水田」)、佐藤洋平(1995～2004年、「換地の理論と応用」)、塩沢昌(2004年～現在)の系譜をたどっている。

このような優れた歴代教授のなかで、とくに竹中教授と小出教授(いずれも故人)は、筆者の恩師であるが、今とってみれば上野英三郎博士の裏談義やその後の農業土木学分野にある裏表の出来事をじっくり聞いてみたい気持ちで一杯である。

東京渋谷界隈の映画館に出かけてみて、「HACHI / 約束の犬」を鑑賞し、あわせて涙腺を溢れさせてみたい。

参考文献

- 石井 敦(2006)：耕地整理事業から土地改良事業への展開過程－事業内容と類縁用語の検討を中心に－、三重大学生物資源学部学術紀要 33、29-37
- 石井 敦(2008)：上野英三郎「近代農業土木学の創始者」、県土連 50 年史、三重県土地改良事業団体連合会、250-252
- 松竹オフィシャルサイト(2009)：<http://www.hachi-movie.jp/>、 原題 "Hachiko: A Dog's Story"、日本公開邦訳名「HACHI / 約束の犬」
- 農業農村工学会ホームページ(2009)：<http://www.jsidre.or.jp/hachi/hachi-ex.html>、ハチ公物語
- 牧 隆泰(1972)：農業土木学の始祖 上野英三郎博士の足跡、農業土木学会誌 40(1)、47-59